山本清記念財団会館

以下文・写真　山崎　誠

2007 年国の登録有形文化財
2011 年西宮市の都市景観形成建築物

結善町も古い邸宅街で、昭和の初め頃から徐々に住宅地化が進む。建石線の拡幅で、町のありさまがよく見えるようになった昨今、市の管理施設「夙水園」も旧邸宅の寄贈を受けたもので、町の成り立ちを物語っている。

そんな結善町には西宮市で２番目の国の登録有形文化財の旧山本家住宅山本清記念会館がある。茶室の研究でも著名な岡田孝男氏の設計で昭和 13 年の建設である。

建設当時からほとんど何も変らない景観は、その控えめな外観ながら、今や地域の大事な景観資源、文化資源といえ、財団による丁寧な管理によって、文化講座などを含む、地域の人びとへの文化的発信の場ともなっていて西宮の大事な財産といえる。

文化庁解説文：昭和 12 築。阪急沿線に開発された郊外住宅地に建つ。通り西側の敷地中央に東面して寄棟造桟瓦葺、木造２階建を設け、その北に平屋建ての台所等を付ける。外壁はモルタル掻き落とし仕上げで、正面は柱等を現し、腰石貼とする。軽快かつ落ち着いた意匠でまとめた都市近郊住宅。

夙川に沿った県道大沢西宮線（建石線）の道路で結膳町に入ると古風な洋風の門が先ず目に付くが、その敷地に門衛所と長い塀に囲まれて建物の 2 階の一部が眺望できる。当建石線はこの洋館が建設（昭和 13 年）以前に計画されており、そのお陰で最近の道路拡幅工事に当たってもその損傷を免れている。もっともこの道路は舞鶴へ向けての軍行道路の計画であったとの話も聞く。

この建物は鳥取県の根雨出身で「たたら鉄製造」で財を得た近藤寿一郎が大阪で活動の阪神住居拠点として建設されている。

設計は初代通天閣設計を設計した設楽貞雄（しだら さだお、1864 年 - 43 年）が建築届けまで出しているが、武田五一の愛弟子の岡田孝男（当時大阪三越住宅建設部勤務）が変更申請して、設計監理の下で笠谷工務店（現在も芦屋で経営）により建設された。当時の棟札が小屋裏に保存されている。

建設中の風景（昭和 12 年頃）

和の住まい設計　稲上文子　景観生活-西宮編まとめ© 2010-. All Rights Reserved
許可なき転載・転用は禁止です。連絡先: https://www.ssl-on.com/sslform/kazabito_ask.php

しかしこの建物の所有が 5 回も変遷している。その所有者の変遷も確証は出来ないが、何かのつながりを以って引き継がれているように思われる。その中での特筆すべき点は、5 回の変遷にもかかわらず大きな増改築がなされずオリジナルがよく残っている事である。

また、この会館の活用・保存に素晴らしいスタッフの勧めで、元所有者の娘さん、道路向かいの浦邸（S 31 年設計、吉阪隆正）の奥様など 4 名の方々のさながら同窓会のごとく集まっていただき、御話を聞く機会を得ました。

その御話で、お客が多く御茶の接待したことから当家は不昧流の茶道であった事、庭石はほとんど根雨の川より運んで庭の景石にした事なども判明した。

岡田を年代的に考慮すればこの茶室の設計を機に、帝塚山学院大学で教鞭をとり、生涯茶室の研究を続けたと思われるが、この茶室特筆は、
1）ニジリ口を設けず貴人口だけである。
2）じゅらく内壁のチリ部に 9 ㎜幅の外壁のじゅらく色を覗かせ内外の融合を計っている。
3）虫喰いで模様つけた床柱も珍しい。
4）窓の配置を考え明るく開放的である。
5）「白樺」の木の床框、外部の同材の垂木。
・・・等々と、考えさせられる茶室である。

主屋も部屋のプランや内外の仕上げなども見応えのある昭和 10 年代の名建物といえる。

和の住まい設計　稲上文子　景観生活-西宮編まとめ© 2010-. All Rights Reserved
許可なき転載・転用は禁止です。連絡先: https://www.ssl-on.com/sslform/kazabito_ask.php